



川越市長 川合 善明氏

市長のメッセージ

川越市は、古くから埼玉県南西部地域における産業・経済・文化の中核都市として発展してきました。

市内に鉄道3社の駅があり、交通の利便性に優れているほか、農業・商業・工業がバランスよく発展していることが特徴となっております。

また、更なる発展の礎のため、令和元年東日本台風を踏まえ、災害に強いまちづくりを進めております。

令和4年には、市制施行100周年を迎えます。これからも、歴史に培われた川越市が、魅力があふれ、誰もが住み続けたいまちでありますよう、各施策に取り組んでまいります。

はじめに

川越市は、都心から約30km、埼玉県の中央部よりやや南に位置し、109.13km²の面積と35万人を超える人口を有している。

古くより交通の要衝として発展し、室町時代には河越城が築城された。江戸時代になると、徳川家康の重臣酒井重忠が川越城に配置され、以降も松平信綱や柳沢吉保など幕政を担う重臣が藩主となり、関東での政治・経済・文化の一端を担った。江戸の北の守りとして重要視されるとともに、舟運による物資の集積地となり、城下町また商業都市としても発展を続けた。

大正11年には埼玉県で初めて市制を施行。昭和30年には隣接する9村を合併し現在の市域となり、平成15年には同じく埼玉県で初めてとなる「中核市」へ移行した。

産業面では、川越駅・本川越駅・川越市駅の3駅を中心に商業が栄え、工業も市内北部・南西部に展開する工業団地等により県内有数の出荷額を誇り、農業でも首都圏の食料供給地としての役割を担うなどバランスよく発展している。

また、川越は埼玉県を代表する観光地でもある。「蔵造り」の建物が多く残る町並み、ランドマークともいえる「時の鐘」、徳川家光、春日局にゆかりの深い「喜多院」などが歴史と文化を今に伝えている。「川越まつり」など伝統的な行事でもにぎわいを見せ、多くの人が訪れている。

重要伝統的建造物群保存地区

昭和50年文化財保護法の改正により「伝統的建造物群保存地区」の制度が創設され、城下町、宿場町、門前町など全国各地の町並みの保存が図られるようになった。川越では平成11年に、川越一番街商店街を中心とする地域が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、昨年選定20周年を迎えた。同地域は、江戸時代から城下町として最も栄えた所であったが、明治26年の川越大火により多くの建物が焼失した。その後、まちの復興にあたり、防火建築である土蔵造りとして建てられた商家が現在の町並みの中心となっている。また、保存地区には寺社、時の鐘をはじめ、埼玉県初の銀行として設立された旧八十五銀行本店本館等の近代洋風建築といった、多様な建築様式の伝統的建造物も建ち並び、特色ある歴史的景観を伝えている。

この地域は、にぎわいの中心が川越駅近くへ移るにつれて、昭和50年ごろは休日でも歩く人の姿はあまり見られない状況だった。そのような状況のなか、



蔵造りの町並み

川越市概要

人口(2020年6月1日現在)	353,491人
世帯数(同上)	161,334世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	46.2歳
面積	109.13km ²
製造業事業所数(工業統計)	444所
製造品出荷額等(同上)	8,587.8億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	1,850店
商品販売額(同上)	6,395.2億円
公共下水道普及率	86.1%
舗装率	75.1%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR川越線 川越駅、南古谷駅、西川越駅、的場駅、笠幡駅
- 東武東上線 川越駅、川越市駅、霞ヶ関駅、新河岸駅
- 西武新宿線 本川越駅、南大塚駅
- 関越自動車道 川越ICから市役所まで約5km

昭和62年に川越一番街商業協同組合を中心とした「町並み委員会」の発足や、平成4年の無電柱化など、歴史的な町並みを生かしたまちづくりへの動きが市民と行政の間で活発となっていった。現在、多くの方を迎えるまちとなったが、これは多くの方たちの熱意と努力によるものである。

★ 川越駅西口に「U PLACE」オープン

川越駅西口の市有地に建設が進められてきた複合施設「U PLACE」(ユープレイス)が完成し、6月8日より順次オープンした。「U PLACE」は、川越駅西口から歩行者デッキで直結する地上11階建ての複合施設で、行政施設のほか、さまざまな商業施設、飲食店、銀行、医療機関、ホテルなどが集結し、川越文化の創造・発信拠点、にぎわいの場所となることが期待されている。

3階には川越市民サービスステーションが開設されている。川越市民サービスステーションは、住民登録や各種証明書の交付などの住民サービスを行う



川越駅西口にオープンした「U PLACE」

「川越駅西口連絡所」、高齢者や障害のある方、子育て世代などの相談、支援を行う「福祉総合相談窓口」、川越市とハローワーク川越が一体的に市民の就職活動を支援する「川越しごと支援センター」の3つで構成される。また、市民の交流の場として多目的に利用できる「交流スペース」なども設けられている。

★ 市制施行100周年、新たな時代へのまちづくり

川越市では人口減少時代でも、持続可能なまちづくりを目指してさまざまな施策を推進している。その一つが「子どもが健やかに成長でき、子育ての楽しさを感じられるまち」。子育て世代を支援するため、本川越駅近くに子育て安心施設の整備を進めるほか、待機児童解消に向けた民間保育所への支援、学童保育室の改修などを行い、安心して子育てができる良好な環境の整備を進めている。

また、去年の台風被害を念頭に河川整備など防災対策の強化を行うとともに、生活道路の整備や児童生徒の通学路の安全対策など市民が安心して暮らすことができるまちづくりを進めている。

川越市は、令和4年に市制施行100周年を迎える。市では記念の年に向け初雁公園内の川越城本丸御殿周辺整備など、記念事業の準備を行っている。新たな時代に向け、さまざまな施策に加え市民の強い地元への愛着により、魅力があふれ、誰もが住み続けたいまちへの歩みを進めている。(吉嶺暢嗣)